

モリアオガエル保存会

ボランティアの活動
since 1969

西宮市立山口中学校では、1969年からモリアオガエルの保存飼育を続けています。



1 池に卵塊(らんかい)を探しに



①校区内の野池に向かいます。ちょうど良い時期は5月～7月。オスとメスが一緒になって産卵している様子を見るには、夕方から夜にかけて。池の水面に木の枝がいっぱい伸びているような池がモリアオガエルの好みです。

写真中央に卵塊を見つけられましたか？

②目が慣れてくると白い卵塊をすぐに見つけられるようになります。木の上では、メスとの出会いを待つオスの姿が見られました。オスはメスよりも小型です。手足の吸盤が発達しているので、どんなところにも張り付くことができます。

(写真は全てiPhoneXで撮影)



③「やったー！見つけたあ！！」

初めて卵塊を見つけたボランティアのメンバーから歓声が上がります。スポンジのようにふわふわしている卵塊を見つけると、感動します。

今度は夜中の産卵観察にチャレンジしてみたいです。

④卵塊を見つけたら、「高枝切りバサミ」と「魚網」の出番です。枝ごと切り取り、壊さないようにそーつと網にいきます。

10個前後とることができたら、バケツに入れて持って帰ります。夢中で池の中に入ったものだから、いつの間にか長靴の中まで池の水が・・・。



2 「飼育小屋」で観察開始！

⑤学校に戻ったら、グラウンドの隅にある「飼育小屋」に集合！コンクリートでできた12個の水槽の上に、池と同じようにつるします。

数日前から水は準備していました。水槽の水質を守るための「上面フィルター」と酸欠防止の「エアープンプ」を準備します。



⑥飼育小屋の様子です。1969年に保護のための飼育が始まり、しばらくは野外で大きな瓶(かめ)に入れて飼育していましたが、平成3年からこの小屋が完成して、どんな天候でも対応できるようになりました。サギやイモリなどの天敵からオタマジャクシを守ることができます。

⑦平成29年(2017年)までは「理科部」の活動として行われてきた保存活動ですが、理科部の廃部に伴い「モリアオガエル保存会」が結成されました。ボランティアを募集したところ、中学1~3年生までの15名ほどが集まりました。

みんな部活動に所属していますが、時間を見つけては小屋に行き、頑張ってくれています。





3 「ボランティア」大活躍！！

⑧毎朝の日課は「霧吹き」です。卵塊が乾いてしまわないように、毎日ミネラルウォーターでスプレーします。

毎日続けているうちに1週間ほどで中から孵化したオタマジャクシが出てくるようになります。



⑨毎日霧吹きをしていると、しだいにスポンジ状の卵塊の形がくずれて、中からまだ卵をつけたオタマジャクシが出てきます。

写真はちょうど水面にくずれた卵塊が浮かんでいるところです。オタマジャクシが見えます。



⑩オタマジャクシを1匹だけつかまえて見ました。カラダが少し透明で、おなかの上の方からヒモのようなものがついています。



⑪水面に落ちた後2～3日は何も食べなくても平気ですが、ここでエサの登場！

雑食性のモリアオガエルのオタマジャクシは実は人間のベビーフードが大好物です。栄養満点の「チキンライス」がお好みです。



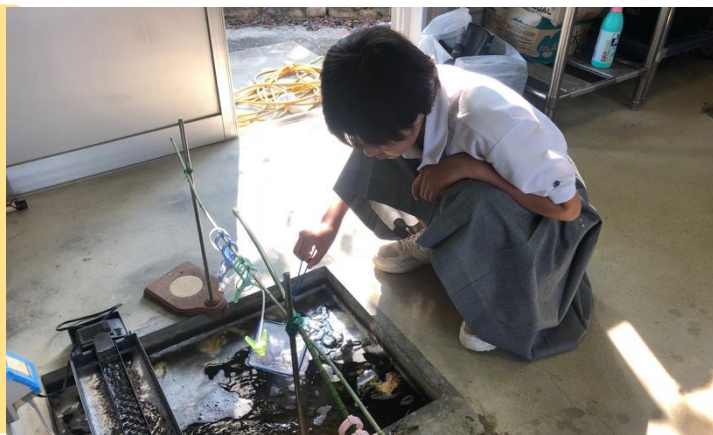


⑫1ヶ月もするとこれぐらいの大きさになります。(4.5cmくらい)目や鼻がはっきりして、オタマジャクシらしい顔になってきました。

この頃からなぜだか水面に上がってきては逆さまに泳いで、しきりに口をパクパクさせていました。

⑬エサのあまりが水質を悪くさせたり、落ちた卵塊の残りが腐るので取り除きます。コツコツとボランティアは作業を進めていきます。

全部の卵がオタマジャクシにはならず、一部はエサになってしまいます。また、途中で死んでしまうオタマジャクシもいるのです。



⑭後ろの足が生えてきました！！この頃が放池(池に放流するので)のサインです。

1ヶ月以上も育ててきたかわいいオタマジャクシですから、別れが近くなっているのは寂しいばかり。早くしないと、水槽からはい上がり、乾燥して死んでしまいます。

⑮こちらは成長が早かったオタマジャクシです。もう前足が生え、いつでも陸地へ上がれるように。

この後しっぽが縮んであちこちにはい上れるようになります。この時期から既に手足の吸盤が発達します。





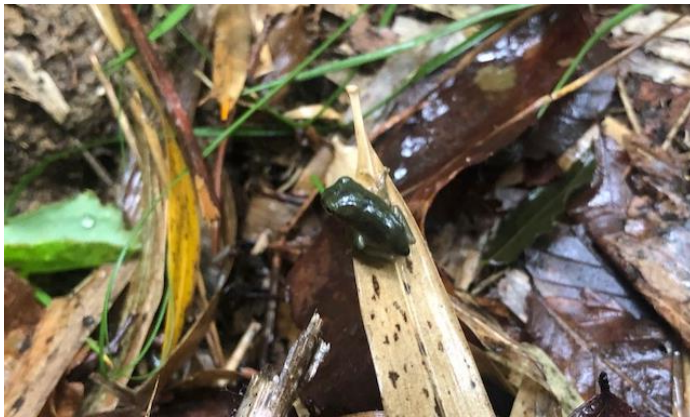
⑯長雨が続き、放池したい日がずんずん過ぎて行ってしまいました。水槽内は前足が生えたオタマジャクシだらけに。

網戸に使うネットをかぶせて、逃げないようにします。また、水中での生活が苦手になるので、発泡スチロールで「浮島」をつくります。



4 苦勞が報われる瞬間「放池」

⑰放池する池が大洪水。このまま放池しても川に流されてしまうので、池の中に放池するのをあきらめ、この時は陸地へ放せるものだけを逃がしてきました。



⑱人工的な入れ物の中にずっといたので、初めての自然を体験。これからここで大きくなっていきます。雨の中放池（正確には陸地へ）しましたが、なんだかさみしいです。

⑲最終的にはここまで大きくなってしまったものがたくさんいました。よく見ると目の横にラインがあります。アマガエルと見間違えそうですが、大きくなるとこのラインは消えていきます。



⑳ やっと放池ができました。ボランティアの生徒がバケツからオタマジャクシを放しながら「また来年ね」と言っていました。

この池がいつまでもたくさんの生き物が集まる場所として残っていくことを願うばかりです。道路の開発などで、消えていくため池が増えました。



「絆まつり」での展示



㉑ 8月上旬に山口センターで「絆まつり」が行われます。地域の人でも直接モリアオガエルを見たことがない人がたくさんいると聞いて、夜中の野池にやってきました。

オスは「コロコ、コロコ」と高温の澄んだ声で鳴きます。ライトを当ててみたら木の幹にしがみついたオスを見つけてつかまえました。

㉒ 水槽に入れて、たくさんの人の来場を待つモリアオガエルのオス。足の吸盤の様子がよくわかります。水槽を少々ゆすっても全くはがれ落ちることがありません。



㉓ もう1匹のオスはお昼寝中。日中はこうしてほとんど動きません。おそらく自然界でも葉の上や幹にしがみついて、夜の活動時間までじっとしているのでしょうね。展示用に2匹つかまえました。



②4 実物の効果はさすがです！「モリアオガエルってこんなに大きかったんや！」という人がほとんどで、山口中の卒業生でもモリアオガエルを見るのは初めての方ばかりでした。

「カワイイ」「飼育してみたい」という意見がたくさんあり、何度も観察に戻って来るチビッコがたくさんいました。

②5 ボランティアも頑張ってくれました。小学生や地域の方々に保存活動を知ってもらうためにティッシュを配りました。あっという間に配り終え、たくさんの人に活動の大切さを伝えることができたと思います。

山口中学校ではモリアオガエルの保護活動を行っています

- ・昭和49年(1974)から活動中
- ・中学生ボランティアが大活躍
- ・地域と協力して大自然を守ろう

モリアオガエルは兵庫県のレッドリストBランク保護の必要があります！！

西宮市立山口中学校モリアオガエル保存会



②6 掲示物に興味を持っていただきました。子どもさんと一緒にモリアオガエルのことを勉強して帰って行きました。町はコンクリートやアスファルトに囲まれてしまっていますが、ちょっと足を伸ばせば、かけがえのない自然が広がっていることに気付いてもらえれば。



②7 1週間池を離れて生活したオスのモリアオガエルとサヨナラします。用意したコオロギや小バエなどの生きエサは全く食べず、水だけを口にしました。

自然に育ったカエルを、人間の与えるエサで飼育することの難しさを知りました。

